

MRI ECONOMIC REVIEW

株式会社三菱総合研究所
政策・経済研究センター

米大統領選の行方(4) トランプ氏が支持拡大

10以上の州で米大統領選の予備選・党員集会が行われた「スーパーチューズデー」を終えて、共和党ではトランプ氏が優位に立った。

トランプ氏は、ニューハンプシャー州での勝利を端緒に快進撃を続けている。不動産王として知られ、歯にきぬ着せぬ発言で耳目を集めてきた。クルーズ氏は保守派草の根運動「茶会」(ティーパーティー)の支持を受ける保守強硬派。最年少候補者のルビオ氏は、キューバ移民2世で、貧しい生い立ちから上院議員まで上り詰めたアメリカンドリームの実現者だ。

トランプ氏は過激な発言が着目されがちだが、共和党の伝統にとらわれず、政策課題ごとに柔軟な姿勢をとり、有権者の支持を集めた。ルビオ氏は3人の中では相対的に共和党の伝統的な姿勢だ。クルーズ氏は党主流派よりも強硬的な発言をする傾向が目立つ。

税制や社会保障でも3者の主張は異なる。税制では、ルビオ氏は現在40%弱の所得税の限界税率を35%、クルーズ氏は一律10%へそれぞれ引き下げるべきだとする。一方、トランプ氏は高所得者対象の減税とともに低所得者の所得税免除を主張する。公的医療保険では、ルビオ氏とクルーズ氏は手厚い「オバマケア」撤回を訴えるが、トランプ氏は貧困層への医療充実に前向きだ。

献金に頼らないトランプ氏の支持拡大は、既得権益層としがらみのある既存の共和党政政治家への不信任感が国民の根底にあるからだろう。ヒスパニック人口の増加による白人層の不安の高まりや経済格差の拡大など、変化する米国社会で共和党も変革を迫られている。

※本コラムは、日本経済新聞の「ゼミナール」に2016年3月4日から17日まで10回にわたり掲載されたものです。

内容の全部または一部を無断で複写・転載することは禁止されています。